2013年3月期決算説明

2013年5月9日

古河スカイ株式会社

＜本日の内容＞

１．2013年3月期（2012年度）決算概要

２．2014年3月期（2013年度）上期業績見通し

３．今後の方向性

1．2013年3月期(2012年度)
決算概要

2012年度 決算のポイント

■前年同期との差異について

売上高約103億円減少、経常利益約6億円減少

- ✓ 売上数量　前期比2%減少
  箔地は減少、その他の分野も伸び悩む

- ✓ 板圧延事業の構造改革（日光工場上工程休止→効果金額　6億円）等、
  収益改善 ＋11億円

■期末配当

3円実施予定

古河スカイ株式会社

2012年度業績（対前年度）

＜連結＞

（単位：億円）

	11年度 （A）	12年度 （B）	増　減 （B）－（A）	増減率（%） （B-A）／（A）
売上高	1,940	1,837	▲103	▲5.3%
営業利益	64	53	▲10	▲16.1%
経常利益	64	58	▲6	▲9.2%
当期純利益	35	31	▲4	▲11.1%

＜個別＞（ご参考）

（単位：億円）

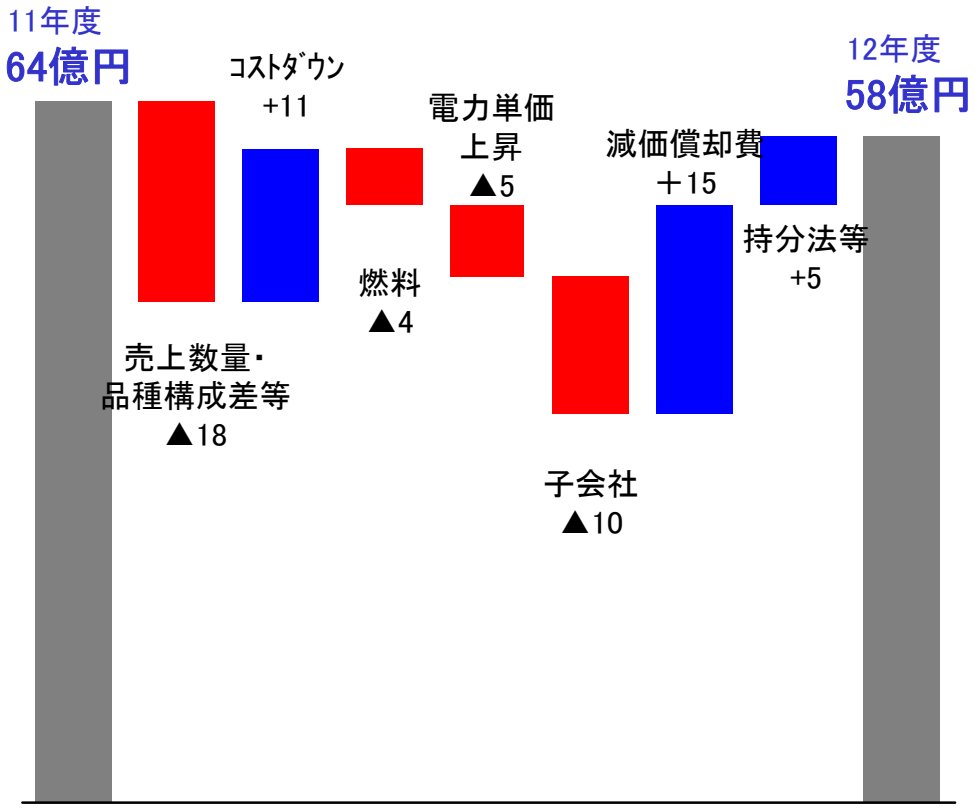
	11年度 （A）	12年度 （B）	増　減 （B）－（A）	増減率（%） （B-A）／（A）
売上高 （数量）	1,673 （398千トン）	1,566 （390千トン）	▲107 （▲8千トン）	▲6.4% （▲2%）
営業利益	44	43	▲1	▲2.3%
経常利益	37	39	2	4.5%
当期純利益	18	23	5	27.3%

連結経常利益分析 （11年度→12年度）

11年度　64億円→12年度　58億円　連結経常利益　増減内訳　（▲6億円）

＜単体品種別数量＞　　（千t）

品種			11年度 (a)	12年度 (b)	増減 (b)−(a)
板類	缶材		126	122	▲4
	箔地		35	31	▲4
	一般内需		109	107	▲2
	厚板	LNG	6	9	3
		その他	24	23	▲1
	輸出		61	63	2
	計		362	356	▲6
押出計			35	33	▲2
鋳鍛計			2	1	▲1
総合計			398	390	▲8



古河スカイ株式会社

連結貸借対照表

（単位：億円）

	12/3末	13/3末	増減
流動資産	**1,027**	**956**	**▲71**
現金・預金	76	90	14
短期貸付金（運用）	88	30	▲58
受取手形・売掛金	571	539	▲32
棚卸資産	224	234	10
その他	68	62	▲6
固定資産	**1,103**	**1,222**	**119**
有形・無形固定資産	873	963	89
投資その他の資産	230	259	29
資産合計	***2,130***	***2,178***	***48***

	12/3末	13/3末	増減
流動負債	**913**	**901**	**▲12**
仕入債務等	574	562	▲13
短期借入金・一年以内返済長期借入金・社債	323	324	0
その他	15	16	1
固定負債	**506**	**504**	**▲2**
長期借入金・社債	384	384	▲0
その他	121	120	▲2
自己資本合計	**706**	**765**	**59**
少数株主持分	**6**	**8**	**2**
負債・総資本合計	***2,130***	***2,178***	***48***

連結経営指標

	12/3末	13/3末	増減
自己資本 （億円）	706	765	59
自己資本比率 （%）	33.1%	35.1%	2.0
有利子負債 （億円）	707	708	0
NET有利子負債 （億円）	543	587	44
D/Eレシオ （倍）	1.00	0.93	▲0.08
NET D/Eレシオ （倍）	0.77	0.77	▲0.00
ROE （%）	5.1%	4.3%	▲0.8

※億円未満四捨五入

2. 2014年3月期（2013年度）

第2四半期業績見通し

2013年度第2四半期 業績見通しのポイント

■2013年10月１日、住友軽金属工業㈱との経営統合を予定しているため、上期のみの見通しについて公表。
通期業績予想については、経営統合後に検討し、公表する予定。

■2013年度は円安の影響で主要品種の競争力が回復する見込みだが、本回復は下期以降と想定。
調達コストが上昇することも予想し、昨年度と同程度の利益水準を見込む。

2013年度第2四半期連結業績見通し

（単位：億円）

	12年度		13年度見通し	増　減
		上期（C）	上期（D）	（D）－（C）
売上高	1,837	934	955	21
営業利益	53	29	29	0
経常利益	58	31	33	2
当期純利益	31	18	18	▲0

諸元　：　原油（ドバイ）　106US＄/B，　アルミ日経地金　240円/kg，　為替　　94円/US＄

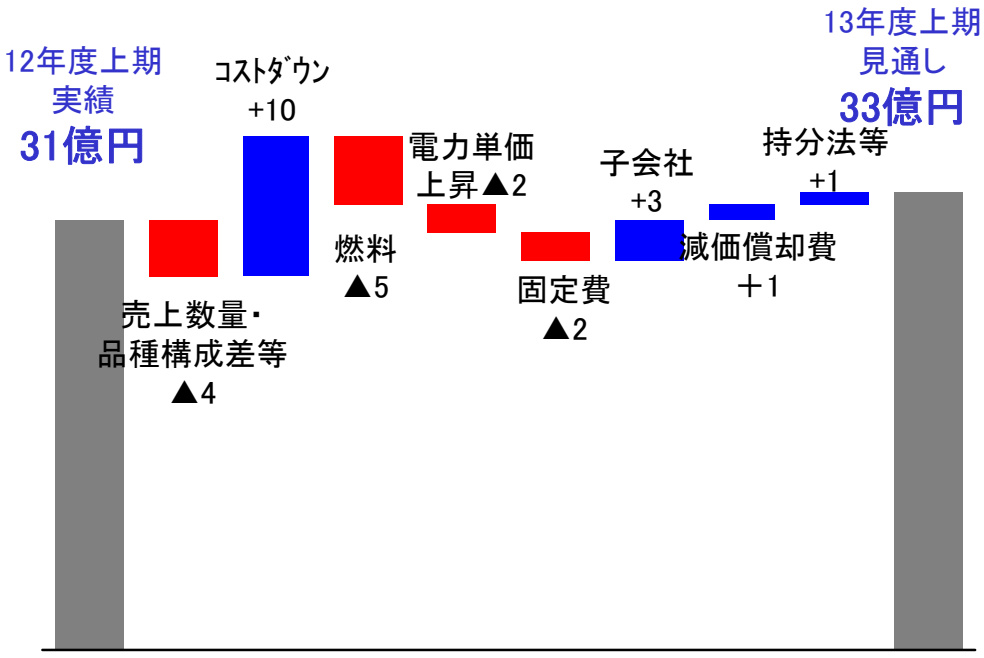
古河スカイ株式会社

連結経常利益分析（12年度上期実績→13年度上期見通し）

12年度上期 31億円→13年度上期見通し 33億円　連結経常利益　増減内訳(+2億円)

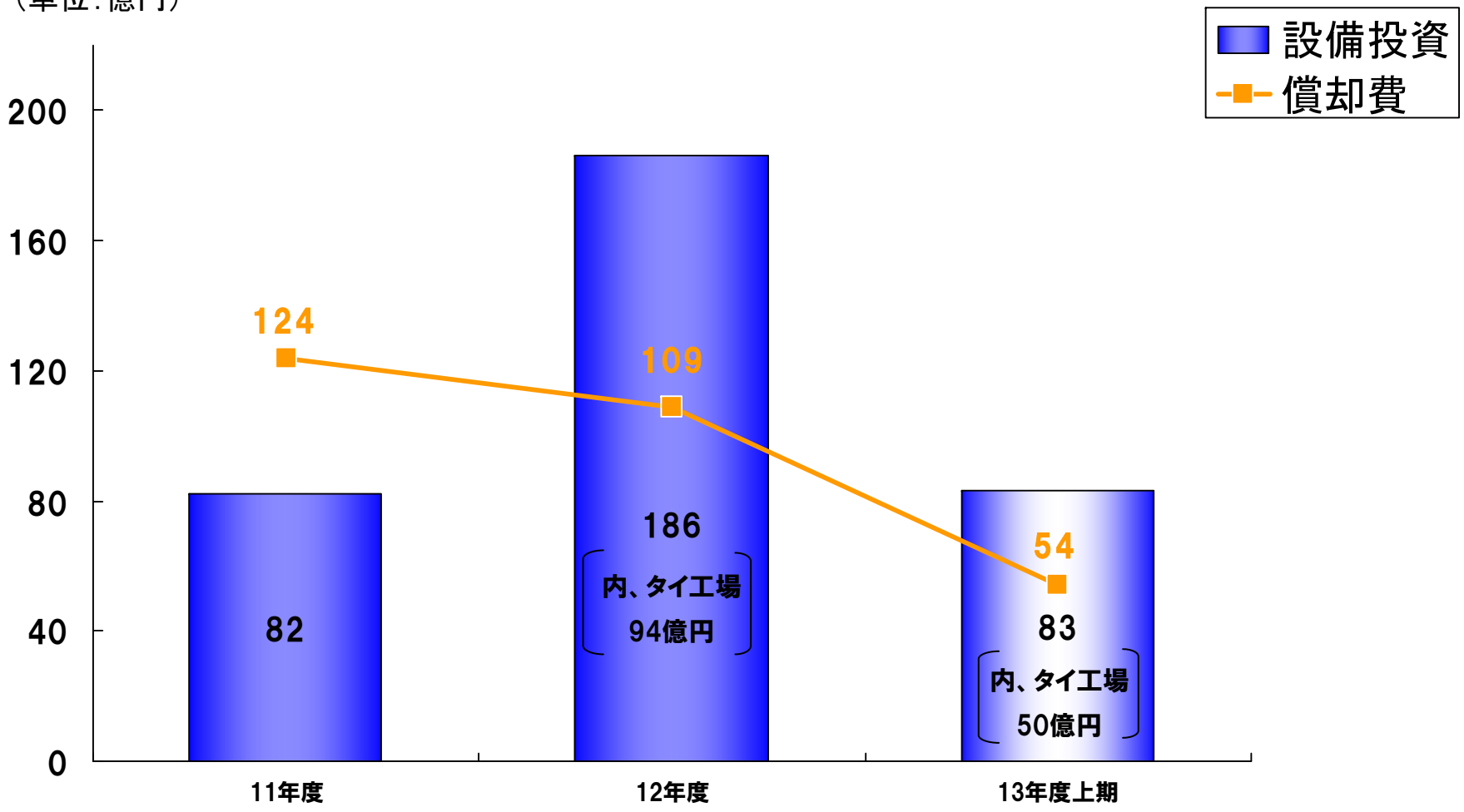
＜品種別数量＞　（千t）

品種			(e) 12年度上期実績	(f) 13年度上期見通し	(f)-(e) 増減
板類	缶材		63	68	5
	箔地		17	14	▲3
	一般内需		54	49	▲5
	厚板	LNG	6	7	1
		その他	12	10	▲2
	輸出		28	31	3
計			179	179	0
押出計			17	16	▲1
鋳鍛計			1	1	0
総合計			**197**	**196**	**▲1**



設備投資・減価償却費（11年度→13年度上期見通し）

（単位：億円）



3. 今後の方向性

1. マーケット動向
2. グローバル展開
3. 住友軽金属工業㈱との経営統合

3-1. マーケット動向

3-1-① 円安の影響

国内生産品の輸出競争力が回復するとともに、海外材の輸入圧力が軽減

＜主要品種の動向＞

主要品種	円安の影響
自動車材、自動車熱交換器材	自動車メーカー及び自動車熱交メーカーは、現調化による海外生産を進める一方で、国内生産台数を増加
半導体・液晶製造装置向厚板	国内装置メーカーが設備投資回復、競争力回復
箔地	輸入箔の減少
LNG船向け厚板	国内造船メーカーが韓国・中国の造船メーカーに対する競争力を回復
輸出缶材	輸出競争力回復、円ベースでの売値改善

上記の期待感はあるが、上期業績見通しには具体的な数値の織り込みは無し。

古河スカイ株式会社

3-1. マーケット動向

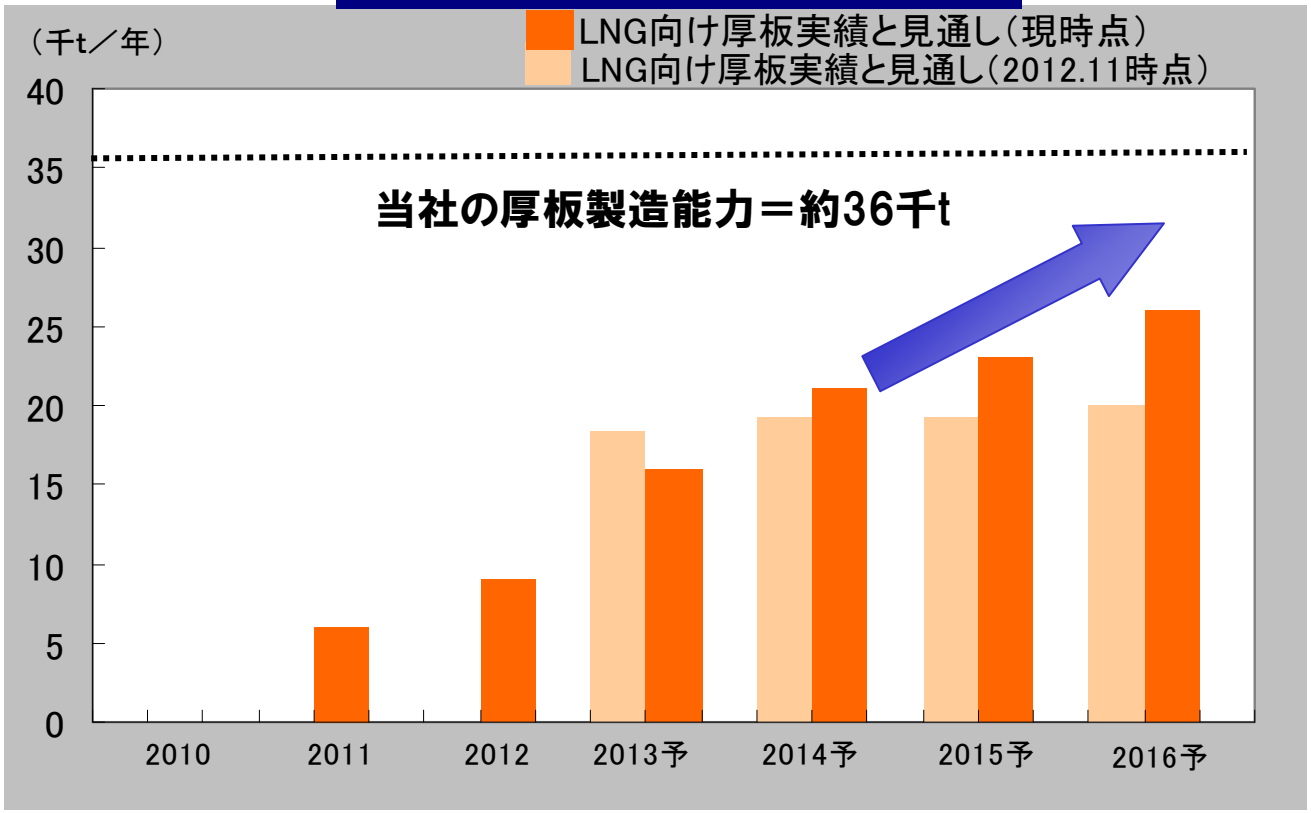
3-1-② LNG向け厚板の需要動向

■今後の当社ＬＮＧ船向け厚板製造見通し

- ✓ 原発事故後、火力発電向けエネルギーとしてのLNG需要増加
- ✓ 2017年日本向けシェールガス輸出開始に向けて、米国政府は今夏までに輸出許可する見通し。
  （日本企業関与、調達可能なシェールガス…1,470万t/年 ※⇒ LNG船 30隻相当 ⇒ 当社厚板 10万2千t相当）
- ✓ 当社厚板生産体制は問題なし

※ 日本経済新聞記事より

当社LNG向け厚板製造数量見込み



古河スカイ株式会社

3-1. マーケット動向

3-1-③ 半導体・液晶製造装置向け厚板の需要動向

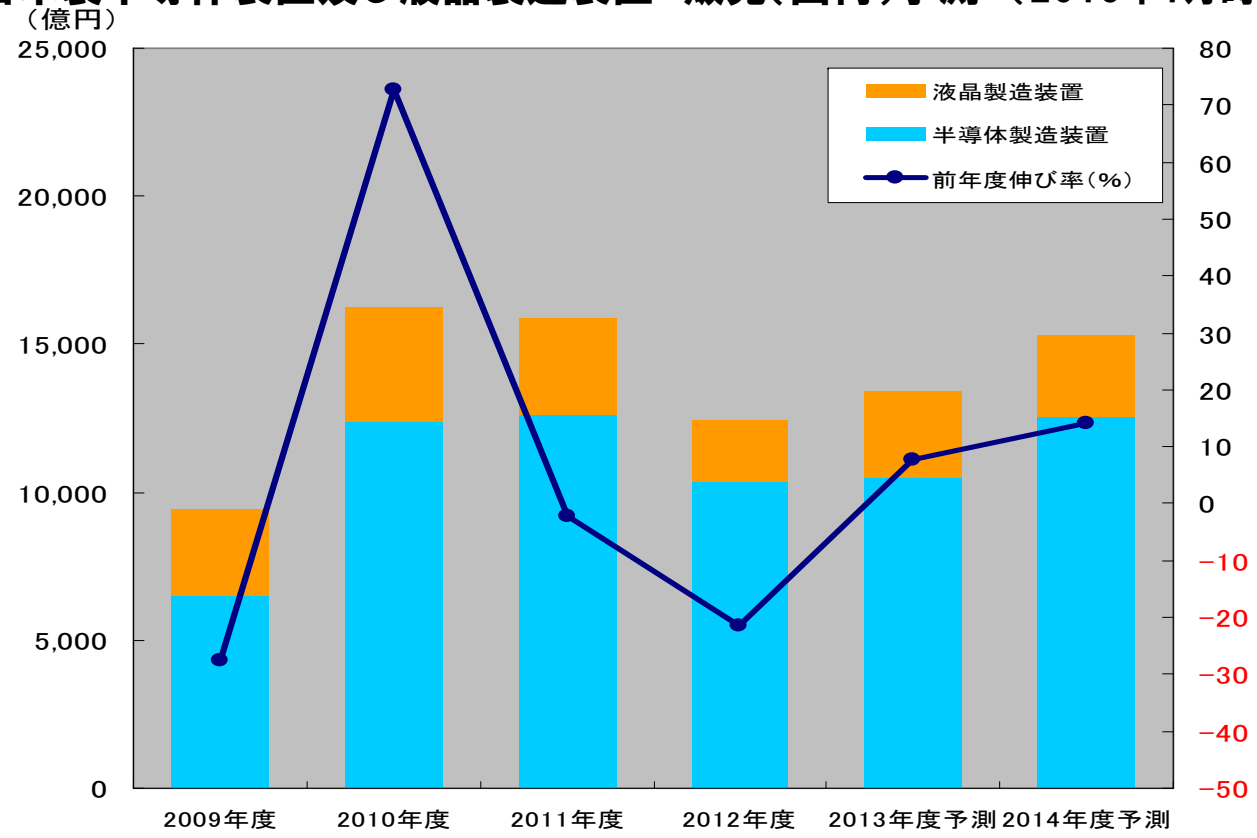
■半導体・液晶向け厚板見通し

景況感の回復から国内装置メーカーの設備投資が回復し、半導体・液晶製造装置需要も増加する見込み。

■半導体関連会社の状況変化

主力半導体製造装置メーカーA社 → 半導体メーカーの設備投資回復を想定し、2013年度連結売上高見込みを2012年度比15%増とする（4月発表）

日本製半導体装置及び液晶製造装置 販売(出荷)予測 （2013年1月時点）



出典: 一般社団法人日本半導体製造装置協会統計データ

古河スカイ株式会社

3-2. グローバル展開

タイ新圧延工場進捗状況

最新鋭の設備を備え、“高品質”と“コスト競争力”を両立する本格的アルミ圧延工場

	CY2011	CY2012	CY2013	CY2014	CY2015
国内	製板事業構造改革 日光上流工程停止		冷延移設		
第1期 冷延工程～		建設開始	設備据付 試運転	2014.1 操業開始 6万ﾄﾝ/年	
第2期 鋳造から 一貫生産			建設、設備据付、試運転		2015.3 操業開始 18万ﾄﾝ/年



- ✓ 2014年1月の第1期操業開始に向け、建屋等の工事は計画通り順調に推移。
- ✓ 今後のスケジュールとしては、2013年10月試運転、2014年1月に量産開始。
  生産・販売共に垂直立ち上げを目指す。

3-3. 住友軽金属工業㈱との経営統合

3-3-① 統合概要

商号	株式会社UACJ （英文社名 UACJ Corporation）
代表者	代表取締役会長　山内　重徳　（現 住友軽金属㈱ 代表取締役社長） 代表取締役社長　岡田　満　（現 古河スカイ㈱ 代表取締役社長）
本店所在地	東京都千代田大手町一丁目7番2号　東京サンケイビル
合併効力発生日 （統合期日）	2013年10月1日（予定）
統合形式	古河スカイを存続会社とする合併
合併比率	古河スカイ＝1 住友軽金属工業＝0.346 （住友軽金属工業1株に古河スカイ0.346株を割当）

UACJ

3-3. 住友軽金属工業㈱との経営統合

3-3-② 統合に向けての進捗状況および今後のスケジュール（予定）

- 2012年8月29日　統合基本合意書の締結
- 2012年9月28日　公正取引委員会 第1次審査終了
- 2013年2月21日　公正取引委員会 第2次審査終了（合併の認可）
- 2013年4月26日　合併契約締結

- 2013年6月　両社、定時株主総会にて合併契約のご承認
- 2013年10月1日　合併期日（統合期日）

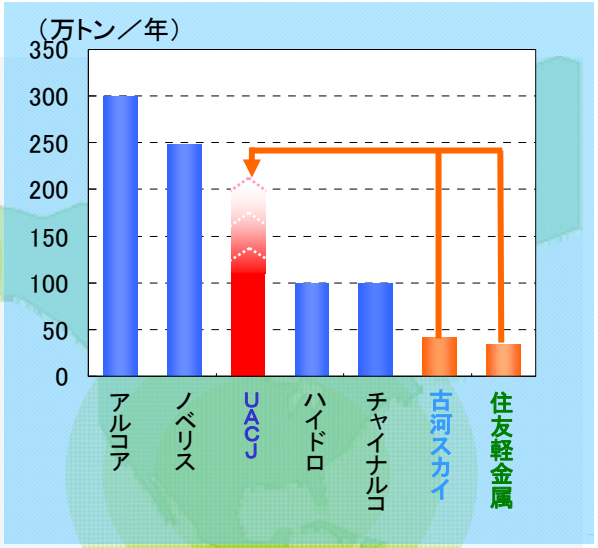
古河スカイ株式会社

3-3. 住友軽金属工業㈱との経営統合

3-3-③ 統合後の姿

世界的な競争力を持つ「アルミ圧延メジャー会社へ」

- ▶ 生産能力 100万トン超、世界第3位に
- ▶ グローバルに展開する生産拠点ネットワークを獲得



グローバル展開力

強いコスト競争力の確立

UACJ

スピード感あふれる顧客対応力

2013年10月の経営統合後、速やかに
新会社の主要施策と統合効果について検討する予定

古河スカイ株式会社

3-3. 住友軽金属工業㈱との経営統合

3-3-④ 加速化する経営統合後のグローバル体制

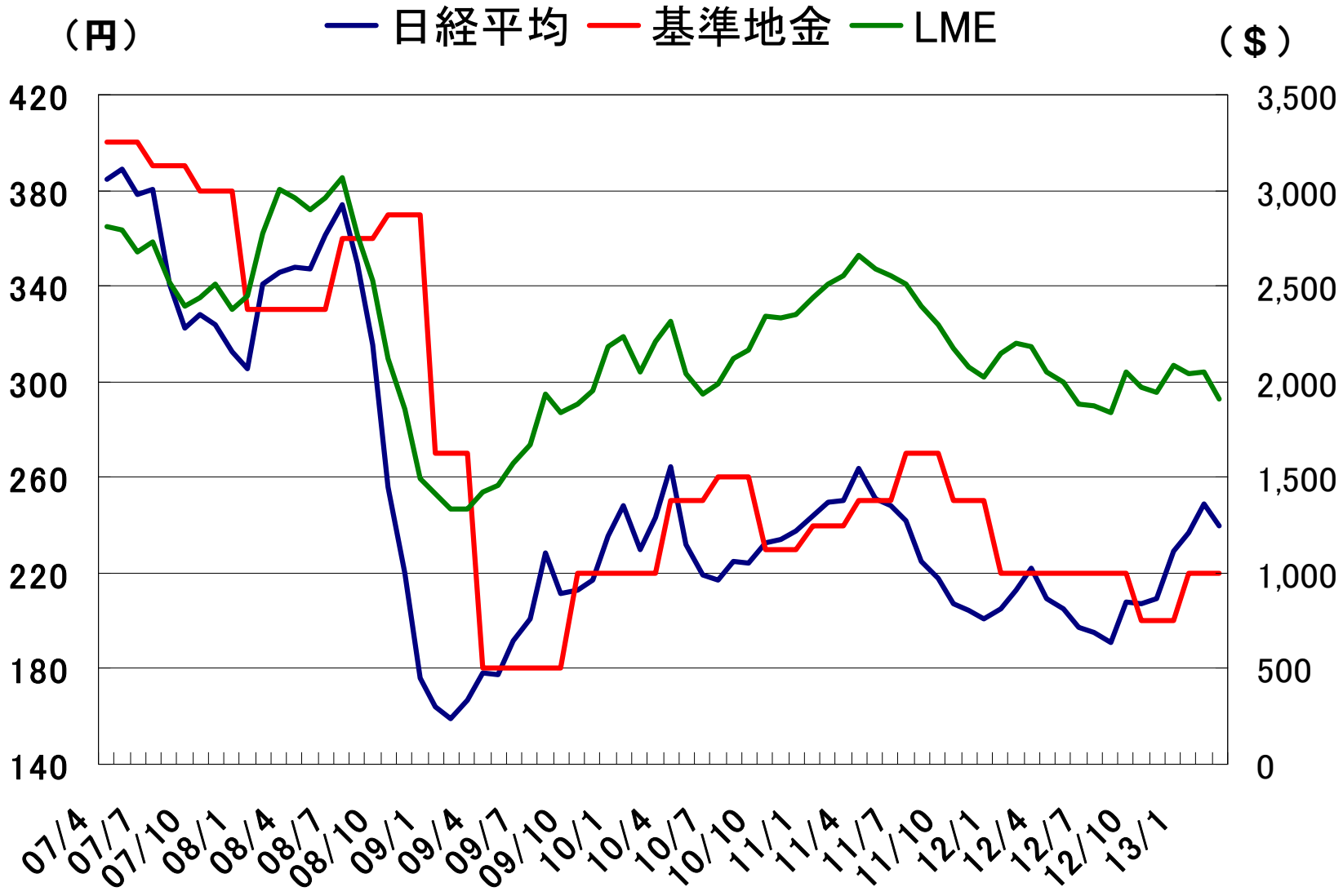
	欧州	東南アジア	中国	日本	アメリカ
板事業	BAL AFSEL	タイ新工場	乳源	福井工場 深谷工場 名古屋製造所 日光工場	TAA （持分法会社から連結子会社へ）
押出事業	住軽テクノチェコ	FIA （インドネシア） 住軽テクノタイ	FSAT （天津）	小山工場 古河スカイ滋賀 住軽テクノ各社	
鋳鍛・加工品		FSV （ベトナム） ナルコタイ	FSWA （無錫）	鋳鍛工場 ニッケイ加工 ナルコ岩井各社	岩井アメリカ ／メキシコ

※ 赤文字は住友軽金属拠点
※ 板、押出、鋳鍛、加工品事業の主な工場、関連会社

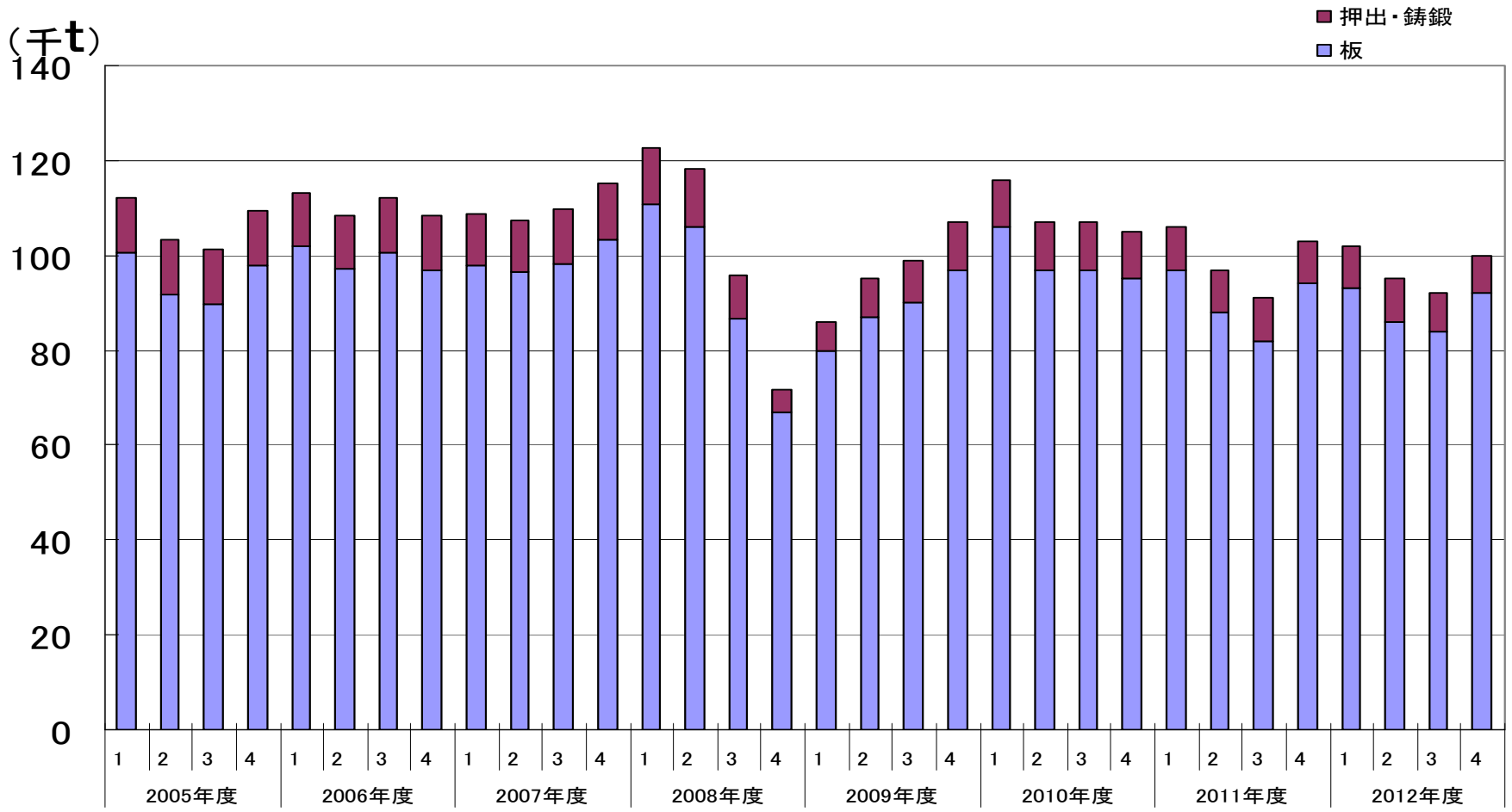
地域的広がりの獲得、点から面への展開、グローバル供給体制の確立

参考資料

アルミ地金日経平均、基準地金、LME推移



参考資料 数量推移


（千t）
押出・鋳鍛
板
140
120
100
80
60
40
20
0
1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
2005年度
2006年度
2007年度
2008年度
2009年度
2010年度
2011年度
2012年度

■ **将来情報についての注意事項**

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは今後様々な要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おき下さい。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

■**著作権等について**

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河スカイ株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

■**本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。**

広報・IR室　TEL：03-5295-3800　FAX：03-5295-3760

ホームページ：http://www.furukawa-sky.co.jp
（東証1部　コード番号：5741）